

2021年 3月

あさかぜ保育園子育て支援だより 3月

3月もなかば！早いものですね。子ども達は、4月には進級してクラスが変わり担任も変わり（多分・・・）ます。一人一人の子ども達は、確かに成長しています。心も体も大きく成長しています。特に、時々しか園に来ない私には「えっ！〇〇ちゃん、こんなにハッキリ言葉で表現してた？」

「まあ！〇〇くん、足腰しっかりしてきたね。」と驚くことしきり。

保護者の皆様、一年間お疲れ様でした。しかし、子育ては一年ではすみません。気長にがんばりましょう。（我が家は大きな成人ですが、いまだに続いているような気がします。子離れができていないかも・・・笑）

今回は、絵本の読み聞かせについて私の体験も踏まえて書きます。

私、自分で言うのもおこがましいのですが、小さいころから本が好きで枕元に本を積み上げて親に内緒で深夜まで読みふけていました。（もちろん朝は苦手）大人になってからは職業柄、絵本にはまりまして家の本棚は絵本が所狭しと並んでいます。子どもも、本好きにしたいと子ども達が物心ついてから必ず毎日絵本を読んでいた。なぜって？絵本には、不思議な力があると思います。心が豊かになり、こどもの人としての能力を育て読み聞かせる事で親と子を幸福と信頼で包む、いくつもの宝が埋もれていると私は信じているからです。

読むのは寝る前です。親として語っておきたいと願う絵本一冊。（子どもたちは、必ず好みの絵本を持ってきます。それも数冊）私を真ん中に川の字に布団に並び読み始めます。このように書きますと「先生だからできるんだよね」と思われる方が多いと思います。しかし、私とて働く母。仕事を済ませ食事・お風呂と濃縮ジュースのような時間を必死でこなす子どもたちを眠りへ（その後片付けや翌日の仕事の準備です）始めは私も、しっかり読み聞かせています。子どもたちも真剣に聞いています。しめしめ、聞いている眠れ眠れ早く眠れ・・・

「ぎゃっ！」（これは私の声）私が眠って絵本が自分の顔に落ちての声です。思わず「しまった」起こしてしまったかなと二人の子どもを見ると天使の寝顔です。子どもの頭をなでて「お・や・す・み」「今日もおつかれさま。母のペースに巻き込んでごめんね。」と反省しながら、そっと布団から出て片付け・明日の仕事の準備をします。子育てって大変！その時は、若いし体力もあるからなんとか乗り切ってきました。だがしかし、子どもが寝ない時は悲惨です。何冊も絵本を読み、イラッとして思わず「ねなさい！」と大きな声で寝かしつけたこともありました。

やっと寝た子どもの顔を見て「怒って、ごめんね」と心が痛みます。

絵本を読んでいる時間は、身体も心も親に抱きとめられ、あまえを受け入れられ、親からの丸ごとの愛を感じていられる時間なのに・・・。その大切な時間を

親の都合で子どもの心を壊しているのです。子どもたちよ本当にごめんなさい。その時は必死で今更ですが文面で謝罪。(素直でないですね～)

ある方が書かれていた文章の中に、今の子どもたちの苦しみの多くは、無償の、ただ温かく抱きとめられるだけの愛に満たされていないのでは。親の気に入る「良い子」でいることで、その対価として愛情が与えられると子どもが感じているのだとしたら・・・。

この文章を読み私、心の中をスウーッと冷たいものが走りました。もしかして、我が子たちがちょっと斜に構えた考え方をするのは「良い子」でいることの反動かも。現在、子どもや思春期の人たちによる社会的現象や事件の背景がここにあるとしたら・・・怖いですね。

さりげなく素朴に母親だけでなく家族みんなが、子どもたちに本を読み(本だけではなく触れ合う)無償の温かさを子どもたちに手渡すことができれば良いですね。

子育てが終わったばあ～ばより